

# 令和7年度東京都立立川学園学校経営計画報告

都立立川学園  
校長 市川 裕二

## I 令和7年度の取組目標に関する自己評価

### 1 幼児・児童・生徒の人権を尊重した教育の充実

呼び捨て等の禁止、さん付けでの呼名の徹底を図ったことで、保護者からの評価も高かった。いじめ防止対策委員会の開催や企画調整会議における情報交換を通して、いじめの早期発見、早期対応の徹底を図った。聴覚障害教育部門においては、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの計画的な活用による児童・生徒のメンタルケアを推進した。

### 2 幼児・児童・生徒が安全に学校生活を送ることができる環境の確保

危機管理計画に基づく様々な訓練を実施した。生活指導部を中心に本校の防火機器の取り扱いや管理も進み、訓練の段階では、適切な避難等ができています。保護者連絡システム(Classi 東京都版)の活用を推進したことで、保護者との円滑な連絡が図れた。医療的ケア保護者会やスクールバス保護者会、放課後等デイサービス連絡会を開催し、保護者や関係機関との連携を深めた。

### 3 幼児・児童・生徒の一人一人の特性や課題に応じた学習の推進

理学療法士、作業療法士、教材アドバイザー等の外部専門家からのアドバイスを活用し、個に応じた指導の充実を図った。個別指導計画、学校生活支援シート、自立活動指導計画の書式を学校全体で調整し、内容の充実を図った。

### 4 学習指導要領の趣旨に基づく授業改善と幼児・児童・生徒の豊かな学習保障の充実

令和7年度入学の聴覚障害教育部門高等部普通科の教育課程の改善を図った。一人一回以上の研究授業や年次研修などの授業研究の実施による授業力の向上、両部門の知的障害の教育課程の授業を見合うことで両部門が知り合う研究授業を実施した。学校図書館を活用した読書活動の充実として、図書貸し出しシステムの活用など、読書活動の充実に向けた具体的な取組を推進した。また、立川市立図書館と連携し、電子図書の貸し出しができるようになった。

### 5 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進するキャリア教育の推進

キャリアパスポートの作成等を通して、小学部から高等部まで連なるキャリア教育を構築した。

重点目標と方策(数値目標)の結果

項目	内容	数値目標	結果
1 幼児・児童・生徒の人権を尊重した教育の充実	人権教育に関する研修会の実施	年間3回開催	3回実施
	学校評価アンケート「学校生活に満足している」の高評価	保護者：80%以上	聴覚：85% 知的：98%
		児童生徒：80%以上	聴覚（小）：72% 聴覚（中）：97% 聴覚（高）：100%
2 幼児・児童・生徒が安全に学校生活を送ることができる環境の確保	アレルギー対応研修会	年1回	1回実施
	医療的ケア対応研修会	年2回	2回実施
	プログラム対応研修会	年1回	1回実施
	緊急時対応訓練	年1回	1回実施
	心肺蘇生法訓練	年1回	1回実施
	学校評価アンケート「もし火災や地震が起きた時でも、安全に避難できる(先生は、安全に避難させてくれる)」の高評価	保護者：80%以上	聴覚：73% 知的：92%
3 幼児・児童・生徒の一人一人の特性や課題に応じた学習の推進	外部専門家からの授業アドバイス	年間30回以上	117回
	学校評価アンケート「個別指導計画の適切さ、個別指導計画の適切な説明」の高評価	保護者：80%以上 (個別指導計画の適切さ)	聴覚：91% 知的：99%
4 学習指導要領の趣旨に基づく授業改善と幼児・児童・生徒の豊かな学習保障の充実	一人一回以上の研究授業の実施	100%	100%
	学校評価アンケート「分かりやすい授業」の高評価	児童・生徒：80%以上	聴覚（小）：79% 聴覚（中）：100% 聴覚（高）：89%
5 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進するキャリア教育の推進	全ての児童・生徒に「キャリアパスポート」の作成	100%	100%
	学校評価アンケート「適切な進路指導」の高評価	保護者：70%以上	聴覚：64% 知的：72%
	各種検定合格者数(延べ人数)	90人以上	120人
○地域とのつながりを深め、地域の特別支援教育のセンター	学校ホームページの更新	80回以上	151回
	副籍直接交流の実施者数(人)	40人以上	48人
	学校公開の参加者数	150人以上	183人

的機能の発揮と強化 (学校ホームページ の充実)			
○教職員の働き方改 革の推進と服務事故 の根絶	一か月の超過勤務が45時間を超 えた月がある教員の延べ人数	180人以下	194人
	管理内における幼児・児童・生徒 の事故件数(件)	0	0
	服務事故	0	0

## II 今後の課題・方向

### 1 幼児・児童・生徒の人権を尊重した教育の充実

呼び捨て等の禁止、さん付けでの呼名の徹底については、学校における最重点課題であり、完全に排除される必要があることから、今後も、徹底を図っていく。また、いじめ防止、自殺の可能性の早期発見のためにも、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの計画的な活用による児童・生徒のメンタルケアを今後も推進する。

### 2 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進するキャリア教育の推進

現在、特別支援学校卒業後の進路は多様になっている。特段、聴覚障害教育部門においては、大学や専門学校への進学を希望する生徒も多くなっている。また、知的障害教育部門においても、多様な特別支援学校への進学を希望する生徒もいる。保護者も含めて、学校卒業後の多様な進路先についての情報を広く周知し、幼児・児童・生徒一人一人が将来への希望をもちながら学習に取り組めるよう進路情報の発信を積極的に行い、進路指導の充実を図る。

### 3 教科学習の充実と学力の向上

聴覚障害教育部門における学力の向上は、重要な課題である。日頃の授業改善を図るとともに、小学部・中学部・高等部の教科の系統を踏まえた連携や指導の充実を図っていく。また、知的障害教育部門においても、現行の学習指導要領の趣旨を踏まえ、教科学習に推進を図っていく。